(C)河北新報社

仙台大 67季ぶりV

プレーオフ 学院大破る

仙台六大学野球

仙台六大学野球春季リーグ（仙台六大学野球連盟、東北放送、河北新報社主催）は29日、仙台市の東北福祉大球場で、優勝を決めるプレーオフ第3日の東北学院大―仙台大が行われた。仙台大が6―4で学院大を下し、1980年秋以来、67季ぶり3度目の優勝に輝いた。仙台大は6月10～15日に東京・神宮球場などで行われる全日本大学選手権に初出場する。

（25面に関連記事）

プレーオフの結果

27日　仙台大3―2福祉大
28日　学院大3―1福祉大
29日　仙台大6―4学院大

熊原5安打完投

学院大―仙台大プレーオフ

学院大	0	0	0	3	0	0	0	1	4	
仙台大	0	0	1	1	0	1	0	3×	6	

（勝）熊原
（敗）加藤裕
（本）松本①（大山）、加藤大②（加藤裕）

【評】仙台大が終盤に突き放した。3―3の八回、千葉の犠飛、加藤大の右越え2ランで3点を勝ち越して試合を決めた。先発熊原は尻上がりに調子を上げ、五回以降は1安打1得点に抑え完投した。学院大は四回に逆転したが、2番手の加藤裕が制球を乱し4失点したのが誤算だった。

仙台大は、同点で迎えた八回に加藤大地の右越え2点本塁打などで3点を加えて勝ち越すと、先発した熊原健人が4失点しながらも粘りの投球で逃げ切った。

試合後、閉会式が行われ、優勝した仙台大に河北杯などが贈られた。個人表彰では、最優秀選手の仙台大・熊原ら3選手が選ばれた。

加藤大 8回会心2ラン

学院大―仙台大　8回裏仙台大2死一塁、右越えに2点本塁打を放ち、両手を広げて喜ぶ加藤大

攻守に粘り 一丸で悲願

仙台大が攻守の粘りで劣勢をはねのけ、34年ぶりの頂点に立った。「選手たちが試合を通じてたくましくなった」と森本監督。普段は褒めないという指揮官も、成長を続けたナインをたたえた。

2点を追う四回、失点につながる失策をした4番松本が「バットで取り返したかった」と右中間への豪快なソロでチームを勢いづけた。六回に加藤大の犠飛で同点、八回には加藤大の「大学で初」という本塁打などで3点を加えた。

優勝が懸かる一戦に「最初は緊張した」という先発熊原は四回に3失点したが、五回以降は140キロ台の速球を生かす本来の姿を取り戻し、九回の1点だけにしのいだ。

冬場の努力が結実した。野手陣は例年以上にティー打撃などでボールを打つ数を増やしてミート力を強化。熊原は制球力を高めるため、投法をセットポジションに固定した。

リーグ戦で優勝を目前にしながら、学院大に勝ち点を奪われる試練も経験。全員が「もう一度挑戦者として泥くさく戦おう」と気持ちを入れ替えてプレーオフに臨んだ結果が吉と出た。

全国大会出場は初めて。「これまで通り思い切りのいい野球をしたい」と奈良崎主将。大舞台でも大暴れする覚悟だ。（加藤伸一）

熊原が最優秀選手

完投勝利でリーグ制覇を果たし、今季の最優秀選手にも選出された仙台大の熊原

学院大	打	安	点
瓶子（右）	4	1	0
橋本（二）	4	0	0
峨山（捕）	4	0	0
上田（三）	4	1	0
藤井（指）	4	1	0
工（走）	0	0	1
柏（一）	4	0	0
藤佐（左）	4	0	2
翔小（中）	4	1	1
山山（遊）	3	1	0
祐本（振）	2	0	0
智野（球）	1	0	0
残併（捕）	1	0	0
熊原	4	0	1
	33	5	4

仙台大	打	安	点
志田（遊）	4	1	1
奈良崎（指）	4	1	0
大坂（三）	4	0	0
松本（右）	3	1	1
鶴田（左）	2	1	0
五十嵐（打）	2	1	0
内藤（走）	0	0	0
郷古（左）	0	0	0
千葉（捕）	2	1	1
加藤大（中）	3	2	3
庄司（二）	2	1	1
根深（打）	1	1	0
松井（一）	1	0	0
儀残（振）			
併（球）			
	29	7	6

	学院大	仙台大
三塁打	高橋、嵯峨井工	志田、大坂、鶴田、大山
二塁打	柏	山本、小山、柏、高橋、大山
暴投	2	
捕逸	1	
時間	2時間36分	
審判	球審 山本祐、一塁 小松、二塁 井上、三塁 高橋	

投手	手	回	打	安	責
大山	5	2	21	6	2
加藤裕	2	⅔	14	1	0
伊藤		⅓	1	0	0
熊原	9		35	5	0

◇仙台六大学野球春季リーグ勝敗表

（全日程終了）

		勝	負	勝ち点	勝率
試合数		12	3	4	.750
宮教大	2	9	3	4	.750
工大	2	9	3	4	.750
東北大	2	9	7	2	.364
福祉大	2（1）	4	8	1	.200
学院大	1（1）	2	10	0	.091
仙台大	2（1）	1	11	0	

（注）1～3位はプレーオフの結果による

①仙台大
②学院大
③福祉大
④東北大
⑤工大
⑥宮教大

○…学院大、終盤力尽きる　終盤に力尽きた学院大。打線は仙台大の先発熊原を攻略し切れなかった。四回に3点を挙げ逆転したものの、その後は沈黙。九回、1死二、三塁から1点を返すのがやっとだった。主将の井上は「（熊原は）球威が落ちていたのに、打ち崩せなかった」と無念さをにじませた。

投手陣も6失点と踏ん張れなかった。先発大山は、チームが逆転した直後にソロ本塁打を浴びた。「直球が真ん中に入ってしまった。一発がなければ違う流れになっていたはず」と悔やんだ。八回に勝ち越しを許した加藤裕は「申し訳ない」と肩を落とした。

菅井監督は「今は（試合内容を）何も振り返ることができない」と言葉少なに球場を後にした。

◇個人表彰

▽最優秀選手　熊原健人（仙台大3年、宮城・柴田高出）

▽最優秀新人賞　楠本泰史（福祉大1年、埼玉・花咲徳栄高出）

▽敢闘賞　加藤裕樹（学院大4年、宮城・角田高出）